

ーFIP(猫伝染性腹膜炎)の子猫 ロエンちゃんー

生後3ヶ月の子猫ロエンちゃんは、定期的に動物病院にも連れて行っていつもたくさんのごはんを食べて、毎日、元気いっぱいこのからの成長を楽しみにしていた矢先、急に食欲不振が続き血尿がではじめました。

すぐに動物病院へ連れていき膀胱炎と診断されました。

ただ妙な胸騒ぎもあり翌日、別の動物病院へ連れて行き、精密検査を受け「FIP(猫伝染性腹膜炎)」の可能性が高いと診断されました…。

40℃以上の高熱と腹水もかなり溜まっていたため入院させることに…。

このまま高熱が続いた場合、もって2週間の命と告げられ、インターネットで治療法や病気に関して調べていた中、どうぶつ気功院を見つけ、すぐに相談をしました。

1日3回の遠隔での気功治療をお願いして、毎日、祈る気持ちでお見舞いにって1日も早い回復を願っていたある日、食欲がなく食事ができなかったロエンがごはんを食べられるようになりました。

それから熱も下がりはじめ、腹水も止まり、なんとか退院できるほどに回復しました。